

第23回参院選への戯言

選挙の主な争点は、決められない政治に対して安定感、自民党経済政策アベノミクスの評価、ＴＴＰ、東日本大震災からの復興、財政再建と消費税、社会保障問題、雇用と最低賃金、原子力発電所、尖閣諸島海域等での国際問題、・・・と種々出ていた。投票の判断が一見複雑そうに見えたが、結果を見れば、政治は安定し、日本経済を復活させ、国民が安心して暮らせることを期待しての投票であった。投票率（選挙区）は約52%で過去3番目の低投票率であった。変化を求め、投票に向かう国民の関心は低かったようだ。自民党と公明党に国民は期待をもって3年間を任せることになった。

過去の自民党は、長年の政権運営の結果、派閥と属議員と呼ばれる議員に振り回されるようになり、小泉首相の一時期に揺り戻しはあったものの、その後国民に軸を置いた政治が機能せず、政権を民主党に明け渡した。しかし、民主党も国民の期待には応えられず、分裂を起こし、前衆議院選挙、東京都議会選挙に続き、今回の選挙でも大きく後退した。国民の多くは、民主党に対しても落第点をつけたのである。

視点を変えれば、自民党は族議員を自ら駆逐できなかったが、政権交代で民主党に族議員の駆逐、既得権益の駆逐をしてもらい、かつ民主党の自壊で復活したのである。政権を担う自民党と公明党には国民目線、国民を軸とした判断軸で政策を進めることを期待したい。

次に、マスコミの選挙結果の開票の報道である。今回、特に印象に残ったことというか、昔の選挙開票速報で感じた興味が全く感じられなかったことがある。それは、投票時間が終了した瞬間、どの放送局を見ても、氏当選（確定）、党当選（確定）XX名と発表される。出口調査結果をもとに総合的に検討した結果だという。今回の選挙では、勝敗が明確な選挙区があまりにも多かったことが理由の一つであろう。投票が終了するや否や、約80%の当選確定候補者が報道されたように記憶する。議席の体制は決まってしまった。その後は、報道結果を裏付けするように開票結果が出てくるだけである。応援している個別議員が当落選上でなければ、今後の政治体制がどうなるのかという期待とワクワク感で報道を見る数時間の楽しみはなくなってしまった。

マスコミは如何に早く選挙結果を報道しようかと努力してきた。このことは大いに評価できる。一昔は、開票結果をいち早く集計して当落を報道した。その後、開票結果と出口調査結果を利用して、より早く当選確定を予測する競争となった。そして今や、選挙開票速報というより開票結果の予測報道となっている。

即日開票は選挙結果を早く国民に提示しようという主旨であったと思う。一方、マスコミの出口調査の手法が発達したことで、開票結果に先んじてかなり高い確率で当落が予測できるところまできている。開票作業に当たる方々は、票の集計にもIT技術の導入で短時間になったとはいえ、残業までして開票を行っている。財政が厳しい？即日開票の意義は昔と変わらない？・・・？

将来、残業代を支払って即日開票するより、翌日、残業せずに開票する方が、マスコミの選挙結果予測を検証するという楽しみも生まれることもあるのではないだろうか？

(A.O.)